

■ 第5章

市民参加による調査

5.1 小学生による身近な動植物調査

5.1.1 調査内容・方法

三島市内の小学校 14 校の 4 年生、5 年生、6 年生の協力を得て、三島市内のタンポポ、ホタル(ゲンジボタル・ヘイケボタル)、カワセミの分布を調べました。

これらの動植物は、自然環境の変化を表している種(環境指標種)とされており、環境省が行っている「身近な生きもの調査」の調査対象種になったことがあります。タンポポは、もともと日本にあった在来種のタンポポ(トウカイタンポポ・カントウタンポポなど)と、ヨーロッパから入ってきた外来種のタンポポ(セイヨウタンポポなど)の分布を調べ、外来種のタンポポが優占する場所では、土地造成など人間活動の影響が強い場所であると考えられます。ホタルとカワセミについては、良好な水辺環境を表す指標といえます。

表 5-1-1 調査対象種選定理由

対象種	選んだ理由	対象
タンポポ	<ul style="list-style-type: none"> ・在来種のタンポポと外来種のタンポポの分布を調べると、人間活動の影響の程度と密接なつながりがあることが分かっている。 ・花を包む総苞片の形を見れば、在来種と外来種の区別は比較的容易。 	6 年生
ホタル	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が生息できる良質な水質と、サナギや成虫が生息できる自然豊かな周辺環境があって発生することができる。 ・以前は市内各地の水辺で見られたが現在は激減し、一部に見られるだけとなっている。 ・成虫は夜間発光しながら飛翔するので見つけやすい。 	5 年生
カワセミ	<ul style="list-style-type: none"> ・青緑色とオレンジ色を基調としており目立つ。また、他の種と間違えにくい。 ・三島市の鳥にも指定されており、広く知られている。 ・河川で魚等を捕まえて餌としている。ひどく汚れた河川ではあまり見られない。 	4 年生

調査では、クラスごとに生物の特徴を書いた調査用紙(「タンポポを調べよう」「ホタルを調べよう」「カワセミを調べよう」と、見つかった場所を記入する校区図を配り、学区内でタンポポ、ホタル、カワセミが見つかった位置を校区図に記入しました。調査用紙の内容は、次頁以降のとおりです。

調査は、2002 年 4 月から 8 月にかけて行いました。